

# 観光グループ

観光グループの質問を始めます。

私たちのグループは、広島県全体のPRや、観光による地域の振興について話し合いました。

このことについて、3つの質問をしたいと思います。

## 質問1 広島のみんを元気にする曲の制作について

沖縄には、「ダイナミック琉球」という曲があります。

この曲は、平成20年に制作され、沖縄の伝統芸能のエイサーや運動会で使われるようになりました。また、沖縄のビール会社のCM曲に採用されるなど、沖縄ではなじみの曲となっています。

この曲は、夏の高校野球の応援に使われたことがきっかけとなり、沖縄の曲として全国に広まり、沖縄をPRしています。また、焼失した首里城の復興に向けた応援歌にもなり、沖縄に元気を与えています。

コロナ禍の今、感染拡大防止のため、自由に移動することが難しい状況にあり、県外にいる広島県出身者が広島に戻ってくることもままなりません。

そこで、広島ならではの曲を広島弁で作り、広島出身のアーティストに歌ってもらい、この曲で広島県をPRする動画を作成し、県外へ発信してはとありますが、いかがでしょうか。そうすることで、広島へ戻ってこられない人にふるさとを感じてもらい、広島に関係がある人全てに元気を与えることができるようになるだけではなく、広島全体のイメージアップにつながるのではないのでしょうか。

## 答弁（知事）

まずは、この御提案を聞いて、議員の皆様が広島のこと大好きで、もっと広島をよくしたいという気持ちや、大好きな広島のことを多くの人に知ってもらいたいという思いがすごく伝わってきて、広島のことを考えてくださっていることを大変うれしく、また、心強く思います。

現在、新型コロナウイルスに対する不安から、これまで当たり前だった日常が送れない中で、県民の皆様のみならず、他地域に住みながら、ふるさと広島や広島で暮ら

す家族や友人に思いを馳せる人なども含め、広島にゆかりのある全ての人々に元気を届けようとする思いは、とてもすばらしいと思います。

先ほど議員から御紹介をいただきました、「ダイナミック琉球」という沖縄を代表する歌が元気を与えているというお話がありましたが、この曲は、単にメロディーがよいというだけではなく、沖縄県民やふるさとに寄り添う人々の思い、歌詞の中に登場する沖縄の景色や文化といったものが沖縄に関係する多くの人々の共感を呼び、元気につながっているものと思います。

私自身も、曲は時に人を励まし、元気をくれるものと思っており、広島において言えば、例えば「それ行けカープ」のように、1975年の誕生から45年にわたって歌い継がれ、県民の皆様をはじめ、多くの人々に親しまれている曲があります。この曲は、ご存じのとおり、真っ赤に染まるマツダスタジアムでカープの勝利を願いながらファンが誇りと愛着を持って歌う曲であり、選手に勇気を与えるのみならず、私たち自身も元気になれる曲として歌われ、近年では、広島ゆかりの著名人が歌ったりレー動画が広島のPRにもつながっています。

この曲からも感じることですが、広島を元気にする上で大切なことは、私たち自身が広島の価値や魅力をよく知り、愛着と誇りを高めていくことであり、広島の、平和を願う思いや、スポーツを愛し応援する情熱、笑顔になれるおいしい食など、こうした元気のもとをみんなで共有した上で、国内外の人々に知ってもらう取組を進め、広島全体のイメージアップにもつなげてまいりたいと考えています。

広島のみんなを元気にする曲の制作の提案につきましては、大変貴重なアイデアとして受け止めておりますが、多くの人に曲が愛されるためには、県主導で曲を制作するのではなく、広島にゆかりのある方々の発意により、広島愛が曲という形になって表現されることが一番よいのではないかと思います。

まずは、そうした広島愛を抱いていただけるよう、県民の皆様と広島の価値を共有することから始めてまいりますので、議員の皆様におかれましても、お力をお貸しいただきたいと思います。

## 質問2 備後地区の観光資源の活用について

令和元年に県外から広島県を訪れた観光客は3,316万人で、平成20年の2,331万人から約1,000万人増えて過去最高となりました。

ところが、西部地区には2,110万人も訪れているのに、東部地区と北部地区を合わせ

ても1,206万人しか訪れていません。西部以外の地域にも、もっとたくさんの人に訪れてもらいたいと思います。

私たちが住んでいる備後地区には、尾道や鞆の浦という観光名所の他にも、江戸時代の参勤交代で大名の宿泊施設となった神辺本陣や、菅茶山が開いた廉塾が、当時の姿のまま現存しています。もちろん公開されていて、誰でも見ることができます。

例えば、定番の観光地では物足りなくなった人をターゲットに、神辺本陣や廉塾などの観光資源と他の名所とを組み合わせ、季節やイベントに合わせて穴場スポットを効率よく訪れるドライブコースを設定し、リピーターとなってもらえるよう働きかけてはどうでしょうか。

また、福山市の深津学区には、江戸時代から伝わる福山藩初代藩主の水野勝成公の大名行列が伝統文化として継承されており、昭和40年代に一旦中断されましたが、平成20年代に入り復活し、毎年、秋祭りで13町内会14kmを練り歩いています。

この大名行列を観光名所である鞆の浦、福山城などで実演し観光客が体験できるようにすれば、新たな観光資源となるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

#### 答弁（商工労働局長）

本県には、厳島神社と原爆ドームの2つの世界遺産をはじめとした魅力ある観光資源が数多くあり、こうした情報を多くの人々に届けて知っていただくことが重要であると考えております。

備後地区には、世界で最もすばらしいサイクリングコースの一つに選ばれたしまなみ海道のある尾道や、アニメ映画のモデルになった鞆の浦のほか、神辺本陣や廉塾といった史跡、備後がすり、郷土料理のうずみ、自然豊かな山野峡などの数多くの観光資源があります。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、少人数や近い場所での旅行が求められていることから、県では、これまで知られていない魅力を発掘し、県内外の観光客の皆さんに喜んでいただけるような、歴史や伝統文化、食、自然などのテーマを持った観光メニューの開発に取り組んでいます。

例えば、御提案いただいた大名行列をはじめとする地域の伝統的な文化・行事を観光客の皆さんに気軽に体験してもらうことは、地域に根づいた歴史などの魅力を深く知っていただくだけでなく、人と人との交流にもつながります。

さらに、こうした体験は、訪れた観光客の皆さんの満足度も非常に高くなり、リピ

一ターにもつながることから、皆さんがお住まいの地域の魅力をどんどん発見していただき、そうした情報を県にお寄せいただきたいと思います。

県といたしましては、頂いた情報も参考にしながら、県内の魅力をつなぐドライブコースなどを設定し、そうした情報を広島県観光公式サイト「ひろしま観光ナビ」などを通じて発信することで、何度も訪れて楽しんでいただけるような観光地づくりに取り組んでまいります。

### 質問3 観光案内カフェによる地元のおすすめスポットの紹介について

旅行に行くときは、インターネットや観光ガイドなどで事前に観光地を調べるとしています。これらには、観光名所の紹介はありますが、地元の人しか知らないような穴場を知ることはできません。

そこで、広島県を訪れる人のために観光案内カフェをつくり、穴場のおすすめスポットを地元の人が紹介するとともに、カフェで広島産品を使用した広島ならではの料理を提供すれば、広島の食を知ってもらうこともできるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

### 答弁（商工労働局長）

広島を訪れた観光客の皆さんが現地の様々な観光情報を知るために利用される観光案内所は、地域の食や魅力を地元の人が対面して直接伝えられる場として重要な施設であると考えております。

県内には、東広島市の西条酒蔵通りにある観光案内所のようにカフェが併設された観光案内所や、神石高原町にある「さんわ182ステーション」などの道の駅では、観光案内所に加え、地元食材を利用した食事の提供や、地元産品の販売を行っている施設もあります。

また、県では、広島県公式観光サイト「ひろしま観光ナビ」などを通じて多くの人に本県の魅力を発信しているほか、東京の銀座にある「ひろしまブランドショップT A U」で、広島産品の販売や、お好み焼などの食事の提供、観光案内を行っています。

また、情報発信のほかにも観光資源の発掘や開発にも取り組んでおり、地元の穴場スポットなどの素材を観光客に楽しんでいただけるメニューとして磨き上げていくこととしています。

こうした磨き上げられた観光メニューを地元のガイドが案内したり、地域の食や物

産品等を観光案内所などで提供することで、地域の魅力を数多く体験してもらえると考えております。

このような取組を進めていくためには、地元の方々の積極的な関わりが必要であると考えており、とりわけ未来を担う若い世代の皆さんが地域の魅力を自らが紹介していただくことも、観光客の皆様が、また来たい、来てよかったと感じる観光地の実現につながっていくものと考えております。

引き続き、観光客の皆様には本県の観光を楽しんでいただくため、地域の食も含めた地元ならではの情報の発信に積極的に取り組んでまいります。